

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072300138		
法人名	特定非営利活動法人かがやき友の会		
事業所名	かがやき入野ホーム		
所在地	群馬県高崎市吉井町小暮568番地1		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成29年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「住み慣れた町でいつまでも暮らしたい」そんなご利用者・ご家族の思いを力を合わせて支えます。認知症になっても普通の生活を送り、他の施設と交流して楽しみや思い出作りなどを継続しています。家族や地域の方々と深く関わられるよう、周辺地域の学校等の運動会や伝統行事に積極的に出掛け、社会参加を促しています。地域近所の方々が自分で作った野菜や果物を届けてくれるなど温かなお付き合いができています。また家族からは、「ここは『ただいま〜』と家に帰ってくるような安心感がある」との言葉が寄せられ、充実した介護が提供できていることが励みになっています。昨年より看護職員が大幅に増えたことで、心配事などすぐに相談できる環境が整い、ご家族・ご利用者も安心して過ごすことができています。職員も安心安全の介護が提供できて、介護の質も上がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな住宅地にある事業所は、自治会の総会に参加するとともに、寿司パーティーや利用者家族のピアノコンサート開催等に地域の方々と交流することで、地域の事や事業所の事が話せる場となり、地域との連携作りを積極的に図っている。そうしたなか、災害対策は年2回の法定訓練以外に水害や地震も想定し、毎月、運営推進会議のメンバーである区長・市職員・民生委員等や地域住民も参加して、車椅子での実地避難訓練や起震車体験など、安心・安全を第一に毎回訓練の内容を考え、地域一体となった取り組みを行っている。また、イベントや外食など各種行事開催に際しては、各家族の持つ個々の特徴をつかみ、それぞれの家族が参加しやすいよう工夫することで、利用者と家族が接する時間をより多く取れるよう支援している。看取りにおいては、看取り後も、職員が葬儀に参列し、職員が自らの介護結果に納得できる向き合い方を行うなど、次の支援内容向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の皆さんが主人公。1人ひとりの個性を大切に笑顔あふれるホームを目指します」の理念を職員全員が正しく理解して実践している。	法人の理念とは別に事業所独自の理念をつくり、「利用者が主人公」ということを中心に、利用者一人ひとりの生き方を中心に個別に考え、人間関係や利用者との関わりにつまずいた時に、理念の原点に立ちかえられるように心がけている。	個々の職員が理念の持つ言葉の意味を共有できるよう、職員間で話し合う機会づくりを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や隣近所へ回覧板を届けたり畑で野菜を収穫させてもらったりしながら、地域の一員として交流している。定期的に地域の清掃や区の総会にも参加したり、小学校、幼稚園との相互交流も積極的に行なっている。	地域住民の一員である事業所として、地区の総会や道路清掃に参加するとともに、小学校の運動会や地域のスーパーへの買い物、神社での獅子舞見学など事業所全体で参加し、利用者ともども地域住民となった活動に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム主催のコンサートなどに積極的にご招待するなど、施設と認知症の人の理解や支援が深まるよう努力している。今後は認知症のセミナーを開催し、更に近隣の方々に足を運んでもらい、病気の理解を深めてもらう取り組みを行なう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練などの行事と運営推進会議を同日に行なうことで、積極的な意見を引き出し、サービス向上に努めている。	区長・民生委員・市担当者・家族など土曜日にもかかわらず、常に10名以上の出席があり、避難訓練のデモンストレーションや事業所2階の空スペースの利用方法など、幅広い話し合いが行われ、地域に根ざしたサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議の際に詳しくサービスの状態などを説明し、情報交換することによって、良い協力関係を築いている。	行政との関わりは、運営推進会議への職員の参加や、各種書類提出・居室の空き状況の報告等の関わりとなっている。	事業所として、行政とどのような関わり方が、事業所運営のあるべき姿なのか等を検討していくことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員全員が正しく理解している。さらに「身体拘束禁止」の研修に順番に参加し、チーム会で職員に伝達し、共有している。	「拘束をなぜするのか、拘束はなぜしてはいけないのか」を深く掘り下げて、職員が理解できるように、月2回のチーム会等で必要に応じて職員全体で話し合い、家族にも説明できるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修を計画し、法人全体で虐待防止の徹底について理解するよう努めている。また、職員の心身の健康面にも注意し、いつも平常心で介護ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内研修に権利擁護等の制度理解の研修を取り入れ、介護支援専門員等が講師となり、勉強会を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては事前に利用者や家族の状況、不安や疑問点などを十分に理解した上で、サービス内容を細かく説明し、承諾を得て契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などで家族が意見や要望をしやすいような雰囲気作りに努めている。	外食や事業所の清掃活動など、家族の各種イベント等への参加要請も、家族のニーズの把握に努め、個別に家族の状況にあわせた対応を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーム会などで職員の意見や要望を聞き、全体で解決に取り組むよう、事業運営委員会などで話し合っている。	職員用の意見箱があり、幹部会議の場で職員の意見・要望等を提出し、協議・検討されている。また、チーム会ではイベント時の休憩の取り方など、前もって議題を明記することで、意見の出しやすい状況を工夫して、働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に就業規則を見直し、賃金規程等の整備を行ない、必要に応じて内規を定めるなど柔軟に対応している。明確な規程を作ることにより、働くことへの意欲と充実感が得られるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	虐待防止研修や接遇研修など独自の研修内容で職員1人ひとりの力を高める機会を設けている。外部研修に行った際は、発表会を行なうなど、様々な体験を通して成長していく過程を大切にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と職員の交換研修を行なったり、祭事等に参加したりしながら相互にサービス方法を学び合い、実際にケアに生かすなどして、サービスの質を向上させる取組を積極的に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用者本人や家族と面談し、基本情報を職員が共有することで入居後も本人の言動、表情などから、より安心して過ごすことができるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後も必要に応じて希望や不安なことがないか、電話や面会時などで要望に応えられるよう良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、ADL、日常生活全般について、チーム会を行ない、事前の情報を元に何ができて何ができないのかを見極め、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の下ごしらえ、洗濯物たたみ、屋内外の掃除など、生活全般を楽しく会話をしながら一緒に行なうことで、生活者の一人として実感してもらえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を尊重し、さらに家族も参加できるイベントなど思い出作りができるよう、家族との絆を大切にしながら本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店や家族の集う自宅に外出・外泊したりする機会を尊重し、家族や親せきが気兼ねなく面会できる環境作りに努めている。	地域の方が、「○○ちゃんいる？」と気軽に出入りできる環境を提供することで、利用者の記憶が刺激され、思考の幅がひろがるなどの各種ケアに活かす方策の工夫がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの身体的、精神的状況を考えながらホールの席の変更を行ったり、利用者同士がにこやかに会話することができる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方やその家族からも、問い合わせをしやすい環境を作り、必要に応じた相談や支援をすることのできる関係性を保つように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、または家族の要求、要望を最大限に反映できるように一人ひとりの些細な表情やしぐさから感じ取り、本人本位の支援に努めている。	利用者との日々の話し方で、その利用者の思いを知ることや、たくさん会話することで、心の触れ合いが持てるよう心がけている。言葉のキャッチボールを行うことにより、その利用者一人ひとりを理解し、気が付いたことを記録することで、職員間で共有しケアの向上に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方などを伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護の中で常に「できる力、分かる力」の把握に努めており、これまでできたことができなかったり、逆にできないと思っていたことができたときは、気が付いた職員がその都度記録に残し、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を把握しながらチーム会でケアの方法を話し合い、状態に合わせて計画の作成に取り組んでいる。その都度、モニタリングを行ない、反映させるよう努力している。	日々の関わりの中で、何かあればその都度カンファレンスを行い、モニタリングは毎月行っている。チーム会でもケアマネージャーと共にアセスメントを行い、昨年よりカードデックス(利用者の情報や計画などの記録類)にも記録を残している。	チーム会だけでなく利用者・家族を交えたサービス担当者会議の開催や、問題・課題とされることが、一貫した記録となるよう検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の介護記録はカルテに記録している。個別のカードデックスを作成し、プランやその人の状態が一目瞭然に分かるようにし、情報共有しながら計画の実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前に通っていた理美容院へ家族とともに出かけたり、夏には花火を見に行ったり、近所の神社のお祭りに出掛けたり、その季節や時々生まれるニーズに対応し、柔軟にサービスに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元での買い物や理美容院の利用、幼稚園、保育園や小学校との交流を通じ、地域に密着して楽しい時間を持てるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人・家族の希望を優先してかかりつけ医を決めている。受診の際はホームでの本人の様子を主治医に情報提供し、より適切な診療を受けられるようにしている。	かかりつけ医の受診は家族が同伴し、日々の様子を家族に伝え、医師には前もってFAXで連絡している。必要に応じて、往診も可能となっている。協力医も月2回の往診があり、利用者それぞれの健康管理を事業所全体で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化があったときはすぐに看護職員に伝え適切な指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は安心して治療が受けられるように病院関係者に詳しく本人の状態を情報提供し、家族や病院と協力しながら連携を密にして早期退院に向けた支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応に関する指針」を家族に説明し、同意を得ている。終末期、看取りまでを展望し、利用者の状態を見極め、医師等と相談しながら本人、家族の意志を尊重したケア体制を整え、職員全体で支援に取り組んでいる。	入居時に、家族には、重度化や終末期について説明し、看取りについて家族を含めた医師・看護師・職員とで対応する体制を説明している。終末期の在り方や関係者の連携の在り方等について話し合うなか、看取り後も管理者が職員との個別面談を行うなど、ケア向上に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は応急手当、初期対応マニュアルを活用し、更に消防署隊員による救急救命講習を定期的に行ない、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月15日を「防災の日」として通報訓練や備品の点検等を行なっている。年2回消防署、近隣住民に参加してもらい、総合避難訓練を行なうことで、利用者の状況を理解してもらい、緊急時には協力体制が取れるよう信頼関係を築く努力をしている。	地域の方をはじめ、運営推進会議の出席者を含めた、事業所全体での年間14回の災害対策に取り込んでいる。出火場所により避難経路を変えるなど、状況に応じた総合訓練となっている。備蓄は水・レトルト・缶詰などを準備し、事業所が中心になり地域全体での協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の声掛けをあからさまに行わないなど、1人ひとりの尊厳を大切にしている。送りや会議の際には利用者に配慮したニックネームやイニシャルを使うなどプライバシーの確保に徹している。	呼名は、名字や呼びなれた呼称に「さん」付けで呼んでいる。利用者一人ひとりが人生の先輩としての対応を心掛け、利用者の尊厳を損なうことのないよう、職員間で介護のプロとしての意識の醸成に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりの好みや要望を本人や家族から聞き取ったり、日常会話の中からくみとり、思いや希望を実現するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの日常生活を尊重し、安全性を重視した上での散歩やドライブ、気の合う方同士でのおしゃべりなど、くつろいだ日常生活を送っていただくことを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と一緒に理美容院に出掛けている。外出するときなどは天候や気温を考慮した服装を一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔からの風習や行事を尊重し、季節の食べ物や手作りのおきりこみ、おはぎ、栗ご飯など、利用者の好むメニューを提供している。職員は利用者と同じものを食べ、下膳や片づけを一緒に行なっている。	メニューは、食材搬入業者のものを参考にアレンジし、事業所独自に全てを手作りで提供している。利用者から日常的に四季を感じるものや、好みのものを伺い、職員が同じテーブルで食事することで会話も弾み、楽しみながらの食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量の摂取表を活用して全員の状況を把握している。更に一人ひとりの状態に合わせてロミをつけたり、きざみ食にするなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをし、緑茶で口腔内のうがいをしている。また介助の必要な方には口腔内の残渣物を取り除き、誤嚥性肺炎の予防にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、日誌に時間の記録を取っている。声掛けや誘導によって、紙パンツから布パンツに改善したり、排泄に関して一連の動作を理解できない方には、自力でできるようにその都度何度でも丁寧に支援している。	トイレで排泄する習慣を心掛け、排泄パターンを活かしながら、職員との信頼関係を構築するなか、あたりまえのことをあたりまえに行えるよう、自立排泄に向けた個別の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヤクルト、10時のティータイムには牛乳を取り入れている。便秘気味の人へはトイレに座ったときに腹部をマッサージし、排便を促している。さらに医師の処方による薬を必要に応じて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入る時間や湯加減など、ゆったりとリラックスできるように一人ひとりの希望に合わせている。また、本人の意思と体調を考慮し、気持ちよく入浴できるような支援を行なっている。	入浴剤やゆず湯・しょうぶ湯と、その時々々の季節に合わせた入浴を楽しむ支援を行っている。また、入浴時にリラックスできる好みの歌や、ゆったりとした会話を心がけながら、その人の好みに合わせた入浴時間で入浴出来るよう、楽しめる時間を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりに合わせたベッドや寝具を用意している。更に一年を通して室内温度の調整を行ない、冬期には湯タンポを使用することで安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを作成し、全職員が内容を理解している。実際の服薬の流れは、毎回の準備段階、予薬する時点、空き袋の処分の際と三重チェックを導入している。また日常の体調変化を見逃すことなく記録し、看護職員や主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食事前後のテーブルふきなど一人ひとりの持っている力に合わせた作業を行なっている。しその葉取りやふき、芋がら剥き、ミニ菜園でインゲン、ナス、ゴーヤを収穫したり、楽しみの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブに出掛けることを大事にしている。外食も日常的に行なっている。今後、地域主催のサロンにも参加できるようにしていきたい。	地域とのふれあいや事業所のありようを知ってもらえるよう、散歩等の機会を捉えて心がけている。近隣の桜の花見や、地域の方からの柿もぎの誘いに出かけるなど、季節それぞれの楽しみ方を工夫しながら外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が取っている新聞の支払いなどを職員と一緒にこなしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等への年賀状に一言書き入れてもらったり、本人の言葉を代筆したりしている。また時々電話で会話するなど家族との絆が途切れないよう日常的に働きかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は落ち着いた配色の壁や適正な明るさの電灯、常に過ごしやすい温度を保つなど配慮し、四季折々の花を飾るなど居心地良く生活できるよう工夫している。またリラックスして食事が摂れるようクラシック音楽を流すなどしている。	共用空間全体が一目で見渡せ、日々の生活の中から個別に安心・安全に居心地良く過ごせるよう配慮し、四季折々の花や写真、利用者手作りの物を飾っている。また、家族や孫が思い思いに過ごせるようにソファがあり、本棚には小説・漫画・雑誌・新聞などが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室から畑の景色を見たり、ソファに座ってテレビを見ることができるよう、思い思いに過ごせるよう工夫している。また座る席は常に考慮して、適切な席替えなども行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使い慣れた家具を持ちこんだり、ベッドに限らず希望に応じて布団を用意したりして、生活習慣を維持できるよう支援している。また居室内に家族の写真や花の絵を飾ったり、カレンダーをかけることにより日付の認識を促している。	居室には、一人ひとり、個性豊かなカレンダーや仏壇・家族写真・手作り品など、その人らしい個々の配置となっている。ベッドではなく布団で寝たい方は布団でと、入居前の自宅での過ごし方や自宅のレイアウトを参考に、利用者・家族の希望を取り入れた居心地良く過ごせる支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置を調整したり手すりをつけたりし、安全に自立歩行ができるよう支援している。また段差で転ばないように目立つ色のテープを床に貼ることで、分かりやすく注意を促している。		